

敦賀発電所1号機の原子炉手動停止について

当社、敦賀発電所1号機（沸騰水型軽水炉：定格電気出力35万7千kW）は、定格電気出力で運転中のところ、3台ある原子炉再循環ポンプのうち2台（B・C号機）の軸封部（メカニカルシール）でシール機能の低下傾向（シールリーク流量の増加傾向等）が認められました。

本事象は、原子炉再循環ポンプの運転に支障を生じるものでないため、状況を監視しながら運転を継続しておりましたが、予防保全の観点から、当該軸封部を取り替えることとします。

このため、明日2月28日10時から出力降下を開始（14時頃発電停止）し、21時頃に原子炉を手動停止する予定です。

なお、本事象による周辺環境への放射能の影響はありません。

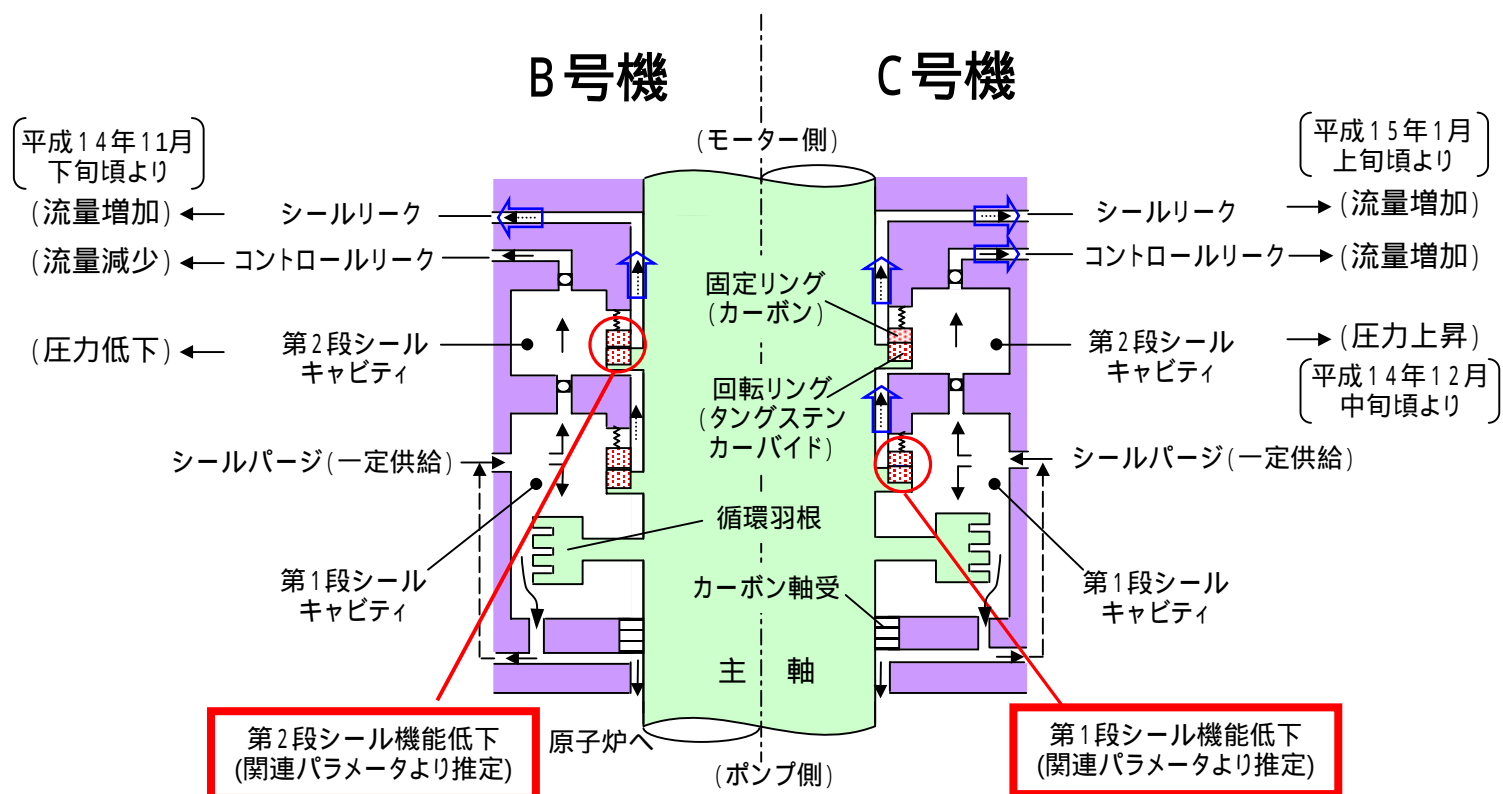
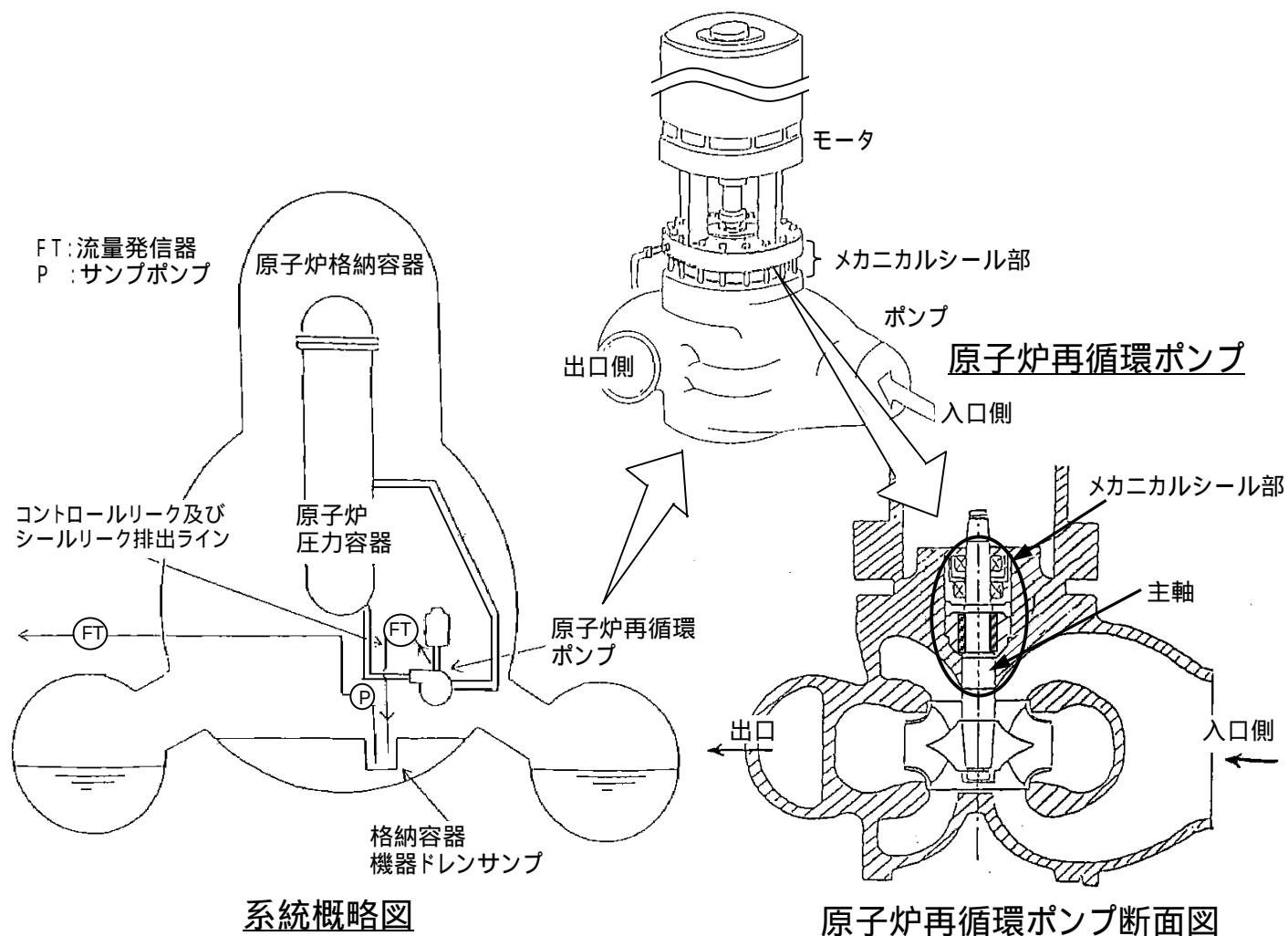
（参考）

軸封部とは、ポンプ内の冷却水がポンプ主軸に沿ってポンプ外部に出ないようにするために設けられているものです。

（経済産業省によるINESの暫定評価）

基準1	基準2	基準3	評価レベル
—	—	0—	0—

以 上



原子炉再循環ポンプメカニカルシール部状況説明図